



中 田 小	学 校 教 育 目 標 さわやか笑顔中田っ子 思い合い ひびきあい 共に生きる力を育てます。
平成28年4月5日	中田小ホームページ http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/nakada/

一人ひとりの「B」

校長 蒲谷 猛

『朧月夜』

作曲 岡野貞一 作詞 高野辰之

菜の花畠（ばたけ）に
入り日薄れ
見わたす山の端（は）
霞（かすみ）ふかし
春風そよふく
空を見れば
夕月（ゆうづき）かかりて
におい淡（あわ）し

里わの火影（ほかげ）も
森の色も
田中の小路（こみち）を
たどる人も
蛙（かわず）のなくねも
かねの音も
さながら霞（かす）める
朧（おぼろ）月夜



学校が桜色に包まれています。学校水田近くの紅梅・白梅の開花は、随分と早かったのですが、桜は始業式・入学式に合わせて花を開き、子どもたちを優しく見守ってくれています。3月27日の「桜まつり」の折には、本校同窓会によって、桜の苗木がまた一本植樹されました。本校の春の景色がさらに未来に引き継がれていくのだなど、今年度の卒業生が次々と苗木の根元に土をかける姿を見ながら思いました。

話は変わりますが、ある教育者の言葉に「Aさせなければ、Bと言え。」というものがあります。これは、子どもにAさせたいと思ったときに「Aしなさい」とは言わない、ということです。子どもの教育に携わる上で、この言葉は至言であると、私は思っています。

忘れ物が多いことが課題になっている子どもを例に考えてみます。その子に、「もう忘れ物するんじゃない。明日は絶対忘れ物をしないようにしなさい。」と言うと、課題は解決するのでしょうか。叱られた緊張感から、もしかしたら翌日は効果があるかもしれませんが、根本的には解決はしないでしょう。「また、忘れ物したのか。何度忘れたら気がすむんだ。」では、もう最悪です。

「忘れ物をしない」ためには、何をしなさいと言えればいいのでしょうか。一緒に『持ち物チェックリスト』をつくって、「この表の□にチェックしながら、ランドセルに入れなさい。」や、「特別な持ち物は、帰宅したらすぐに玄関の『上がりがまち』の真ん中に置きなさい。」ならば、忘れ物をしない習慣づくりが実現するかもしれません。Aができるようになるために、「Bしなさい」と言うわけです。「忘れ物」でなくても、「かたづけ」でも「計算」でも、何でも同じように考えられます。

個々の状況によって「B」は変わってきます。魔法の言葉があるわけではありませんから、「B」を見つけるのはそう簡単なことではありません。子どもと教師が一緒になって、また、学校とご家庭が一緒に考えて見つけていかなければ、そう考えています。

『明日も来なくなる学校』を本校の学校づくりのテーマとして、3年目を迎えました。昨年度末の学校評価報告会でもお話しさせていただいたように、アンケートに「学校が楽しい」と答えた児童の割合は増加しています。楽しくなければ明日につながりませんから、まずは喜ばしいことです。

「楽しい」にはレベルがあります。「できたぞ」「わかったぞ」などの『成長の喜び』や、「やったね」「すごいね」などと『認められる喜び』と結びついた、子どもたちの「楽しい」をたくさん生み出していくことが、今年度目指す次の段階であると考えています。そのためには、一人ひとりにとって、「A」できるようになるための「B」を見つけていかなければなりません。

今年度も、チーム中田、教職員一丸となって、保護者の皆様、地域の皆様のご協力をいただきながら、本校の教育活動の一層の充実に邁進してまいります。ご理解・ご協力のほど、よろしくお願いたします。